

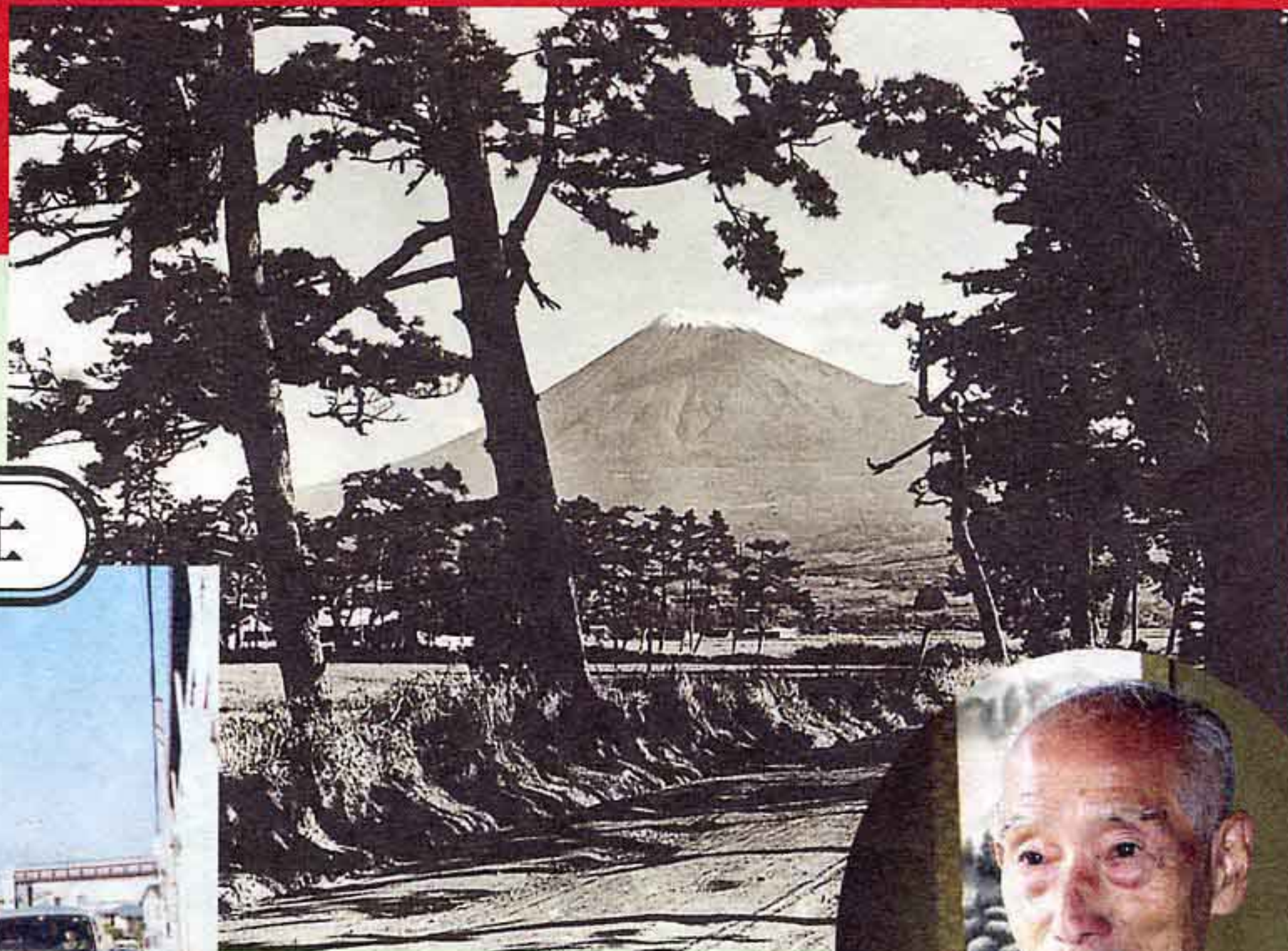


現在の吉原小学校



戦後間もないころの吉原小学校

東海道に宿駅制がしかれて、ことしで401年目。東海道の歴史に新しい1ページを加える年です。市立博物館では開館20周年を記念し、市民の皆さんから古い時代の写真を募集し、「20世紀 写真のなかの富士Ⅱ～東海道の町なみ～」展を開催します。その中から現在の写真とともに4点を紹介し、その場所にまつわるお話を伺いました。家族や友達と、懐かしいあそこ、あの場所を見つけてみませんか。



左富士



▲明治時代の左富士



静岡県文化財保存協会副会長

奈木 盛雄 さん

(国久保三)

◆人生の変遷に、左富士の思い出

私の生まれは沼津市の原で、大正十五年に今泉にある親戚の家へ行くため、父と鈴川駅（現在の吉原駅）から馬車鉄道に乗って左富士を通り新橋でありたのが、私と左富士の最初の出会いでした。昭和十年に依田原にあった会社に勤めたので、鈴川駅から毎日徒歩で左富士を通って通勤することになりました。夜十一時ごろに歩いて帰るときには、人影もなくフククウがホウホウと鳴いていても寂しかったですね。戦後、吉原市役所に勤めました。仕事でユニセフ駐日代表団の外国人に「安藤広重の東海道五十三次の左富士が見たい」と言われて案内したら、絵と今残る一本の松の枝ぶりが違うと言われて困りましたよ（笑）。でもとても喜んで、力強く握手をしてくれました。その手の痛みをよく覚えています。

# 東海道の町なみ

二十世紀写真のなかの富士Ⅱ



# 新春のごあいさつ

富士市長

鈴木 清見



富士市議会議長

前島 貞一



明けましておめでとうございます。ことしは、第五十八回国民体育大会「NEW!!わかふじ国体」のプレ大会が開催されます。

多くの市民の皆様に参加・協力を得て、明年の本番に向け盛り上げていきたいと願っています。

また、総合福祉の拠点として「フィランセ」が完成いたします。

これを契機に一人一人が人間として尊重され、生き生きと輝いて暮らすことのできるまちを目指し、富士山に象徴される富士市らしさを生かしながら、魅力と力強さを実感できるまちづくりを進めてまいります。

明けましておめでとうございます。皆様には新年をお健やかに迎えのことと心よりお喜び申し上げます。

富士市議会は本年も、より豊かな住みよいまちづくりを目指して、市民の皆様への負託に精一杯応えてまいります。また、二年目となります第四次富士市総合計画の確実な推進と、皆様さまざまな行政需要への的確な対応、簡素で効率的な行政改革に、なお一層努力してまいります。

どうか本年も、相変わらぬご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。



吉原本町



昭和30年代の吉原本町通り



イラストは  
富士市出身の漫画家・望月あきらさん  
によるものです



吉原2丁目にお住まいの  
神尾 世利子 さん

## ◆あのころの活気を再び

昭和三十五年、清水市からここに嫁いできました。当時は、アーケードもなく、軒の低いお店が連なっていました。吉原の街に来れば、何でもそろ」と、いつもたくさんの人でにぎわっていました。ガラス戸をはめ、冬はお客さんに暖まってもらうように火鉢の火をおこしました。仕事も忙しく子育てもしながらの毎日でしたが、家族が健康で仲がよいことが私の支えでした。

今、商店街もあのころの活気を取り戻そうと頑張っています。後継者も育ちつつあるので、また再び商店街が活気づくことが今の私の夢であり、願いですね。





▲昭和40年ごろの身延線本市場停留所の踏切

### ◆懐かしい遮断機の音

今の富士緑道は、昔、身延線が通っていたところです。写真は、その当時の身延線本市場停留所です。電車が来ると遮断機をおろす「踏切番」がいて、手でレバーを回して遮断機をおろしていました。

昭和三十年代に入ってから自動車が普及し、遮断機がおりるときのチリンチリンという音がすると、身延線本市場停留所の踏切からひどい交通渋滞になるようになりました。また、身延線の線路は急カーブで、スピードも出せませんでした。身延線の西回りへの変更により、昭和四十四年九月二十七日に本市場停留所が廃止。その最終電車の切符を、記念にと夜十時ごろ買いに行きましたよ。



本市場にお住まいの  
野村 廣次 さん

### 富士緑道



### 富士本町



▲昭和28年の富士本町通り

昭和の初め、私の子どもころ、本町通りの周りはナシの畑や水田ばかりでした。夏になるとナシを運ぶ牛車や馬車が、朝五時ごろからゴトゴトと通りを行き交っていました。母が「ごはんだよー」と呼ぶまで、毎日友達と外で遊んでいました。私の家の裏には川が流れていていました。平垣八幡町あたりで梨を川に投げ入れ、プカプカと浮いているナシに沿って歩いてきて家の裏でナシを拾って食べると、ちょうど冷えていて、それはおいしかったですよ。物はない時代でしたが、川も道もきれいでごみ一つ落ちていませんでした。川に素足で入っても、けがをすることもありませんでした。

### ◆あのナシは、おいしかった



富士本町にお住まいの  
佐野 峯雄 さん



### 二十世紀 写真のなかの富士II

（東海道の町なみ）

とき 平成十四年一月五日(土)～三月三日(日)

九時～十六時三十分

ところ 市立博物館

休館日 毎週月曜日、一月十五日(火)・十六日(水)、

二月十二日(火)・十三日(水)

入館料 大人百円 小・中学生五十円 (未就学

児は無料)

※望月あきらさんと仲間による「あの頃の吉原」や「松永家・三条家ゆかりの短冊」、「大名の香炉」などの特別展示も併設します。

### ◎二十世紀の歴史を未来へ

市民の皆さんが参加する展示を目的に「東海道の町なみ」展を企画したところ、多くの皆さんが写真や資料の提供・作成に協力してくれました。

ビデオなどは違って、写真一枚が持つ情報量は限りがあります。でも、動かない写真の奥にある情景は、忘れていたものを思い出させてくれ、それがまた新鮮な発見にもなります。

これから続いていく時の流れの中で、今もまた新たな歴史のページとなります。ぜひ来館いただき、皆さんの記憶の中の歴史を発掘し、古い時代の風景と対話しながら新たな時代へとつなげていっていただきたいと思いますね。



市立博物館指導主事  
内田 昌宏

